

# 1 調査概要

瀬底島は本部町に属し本部半島西方最短約500m離れた隆起サンゴ礁の島でその形状は北側が大きいシャモジ形をなし、サンゴ礁は島をとりまいて裾礁をなし発達している。特に北側と南側は発達している。島の北西南側にかけては準外洋性で開放的で冬の季節風時には風波が強くなる。その反面東側は本部半島に囲まれ比較的静かな海域である。島の周辺海域では底魚三枚刺網、底魚1本釣、曳縄、追込網漁業等が行なわれ、春から秋にかけてはキビナゴ、ミナミキビナゴ等の群がみられ本部町のカツオ漁船の餌場となっている。瀬底島は一応離島ではあるが、生活圏は本島側と一体であり、漁場利用も又同様である。

現在本部町のカツオ漁船の餌場は南は名護湾から北は塩屋地先にかけての沿岸域であるが、多くの餌場が山地開発、海岸埋立て、採砂等により汚染、縮小あるいは消失されて来ている。餌不足はカツオ漁業振興のあい路となり、その対策は長年の課題であり地元本部町においてもその一対策として県の漁場造成事業により並型魚礁を瀬底島の東側地先に設置しましたが規模が小さく、大して効果を上げていない。かゝる状況からカツオ餌料魚用人工魚礁の設置計画がなされ、その計画にもとずき設置予定場所の環境調査を実施した。調査は瀬底島周辺域を概査しその結果場所選定をし選定場所を出来るだけ詳細に調べた。

## 調査期間

自 昭和50年9月24日

至 昭和51年2月29日

## 調査内容

水深(等深線)、底質、プランクトン、塩素量、水温、透明度、集魚、稚仔魚、生物相、潮流

第1図 調査海域

